

第3章 都市づくりの目標

1. 都市づくりの理念と目標

(1) 都市づくりの基本理念

- ・本市は、関越自動車道や国道17号、国道117号、JR上越線などの広域交通網をはじめとする恵まれた立地環境、長岡東山本山県立自然公園や信濃川などの優れた自然環境のもと、工業や商業機能の充実による雇用機会の創出、文化・スポーツ・福祉機能の充実などを行ってきました。
- ・しかし、急速に進行する人口減少や少子高齢化に伴い、空き家や空き地の増加、中心市街地の空洞化、地域コミュニティの担い手不足などの問題が深刻化しています。
- ・また、新潟県中越大震災や東日本大震災、令和6年能登半島地震などの大きな災害の被害発生や原子力発電所の事故の教訓、近年の気候変動による災害の激甚化や頻発化に伴い、安全・安心に対する市民の意識やニーズが高まっています。
- ・これからの都市づくりにおいては、人口減少や少子高齢化、環境問題、安全・安心の確保などの様々な社会的課題に対応するとともに、まちづくりに関する市民意識の高まりに応えることが求められています。
- ・都市圏や生活圏が拡大し、都市間競争が激しくなる状況にあって、小千谷という個性を失わないためには、今ある地域資源や小千谷にしかない魅力を有効に活用し、さらに磨きあげていくとともに、移住・定住者や関係人口の増加など多くの人々を呼び込み、交流することも必要です。
- ・本市には、先人たちが長い年月をかけて守り育ててきた美しい自然や歴史、伝統の技や文化、産業都市としての創造力、大震災による被害を乗り越えてきた市民力があります。
- ・それらを今後の都市づくりに活かすため、本計画では、次の2つを基本理念に掲げます。

◎ふるさとの原風景を守りながら、誇りと愛着をもち、誰もが安全・安心で快適に暮らすことができる都市づくりを目指します



◎市民・団体・事業者と行政の協働により、個性と創造力にあふれ、多様な人々と交流できる都市づくりを目指します



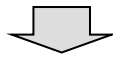
(2)都市づくりのテーマ

- ・都市づくりの基本理念を受けて、**第五次小千谷市総合計画**が目指す都市像「**～ひと、技・自然～ 暮らして実感 地域の宝が輝くまち おぢや**」を実現するための**都市づくり分野**のマスタープランとして、都市づくりのテーマを以下のように設定します。

◆ 第五次小千谷市総合計画 ◆

～ひと、技・自然～

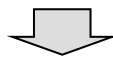
暮らして実感 地域の宝が輝くまち おぢや



◆ 都市づくりの基本理念 ◆

◎ふるさとの原風景を守りながら、誇りと愛着をもち、誰もが安全・安心で快適に暮らすことができる都市づくりを目指します

◎市民・団体・事業者と行政の協働により、個性と創造力にあふれ、多様な人々と交流できる都市づくりを目指します



◆ 都市づくりのテーマ ◆

個性が輝く創造と交流の都市 小千谷

○個性が輝く…

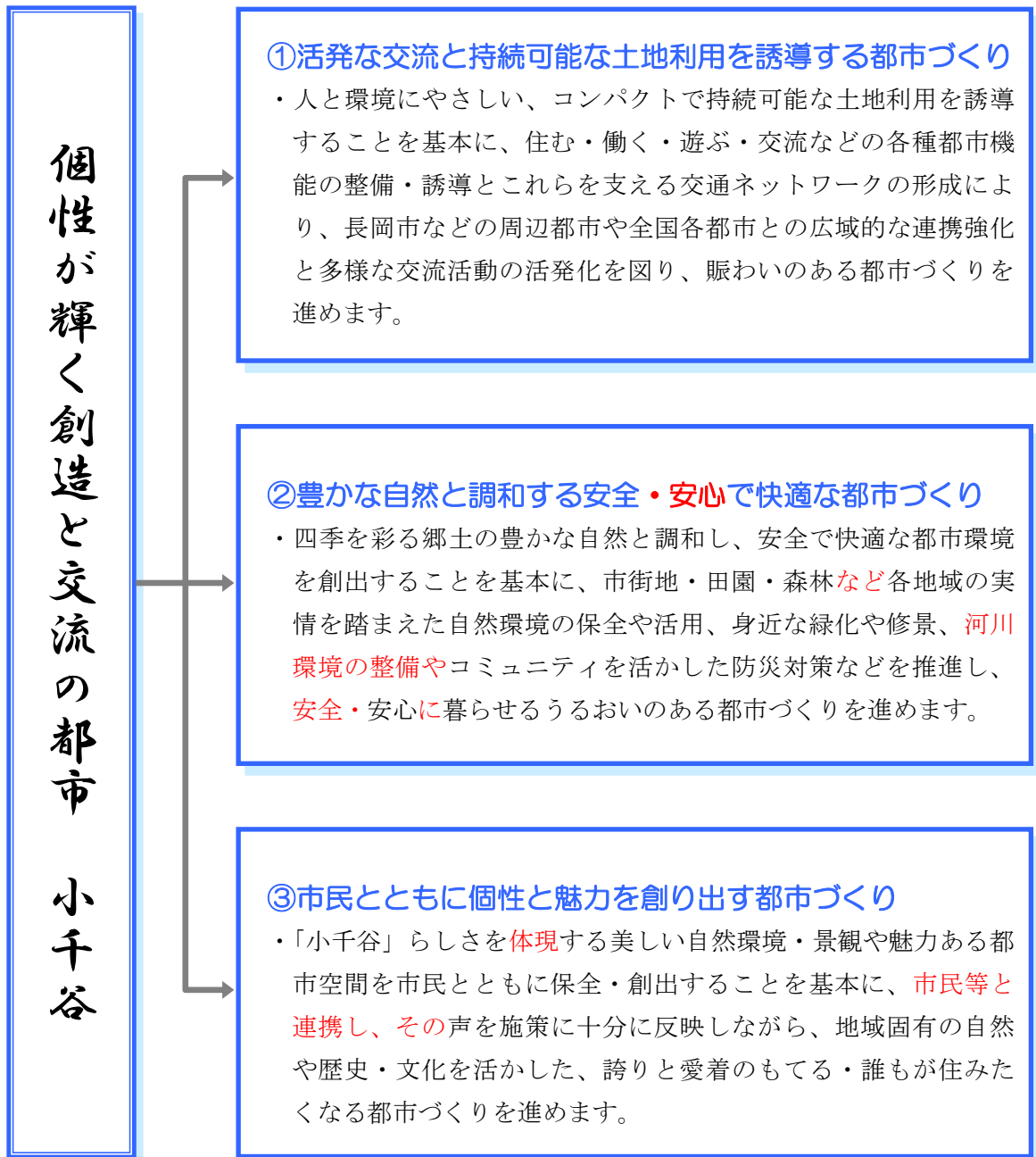
- ・長岡東山山本山県立自然公園をはじめとする緑豊かな山並み、信濃川の広大な水辺とその流れが造り出した河岸段丘の地形、米どころを支える広大な田園、小千谷縮や錦鯉、牛の角突き、片貝まつり、おぢや風船一揆、さらには大震災を乗り越えた市民力。
- ・これらは小千谷を表す代表的な言葉であり、小千谷の「個性」と呼べるものです。
- ・これからの都市づくりにおいては、小千谷の個性にさらに磨きをかけ、**まちの魅力を高めるとともに**、地域の“宝”として未来へと引き継いでいきます。

○創造と交流…

- ・伝統産業に加え、電子部品産業や鉄工・機械産業、食品製造業などの基幹産業を核に、モノづくりが盛んな都市を目指します。
- ・また、安全・安心で快適に暮らせる都市環境を創出するとともに、小千谷の個性を未来に引き継ぐ人づくり、次代のまちづくりを担う人づくりを進めながら、いつまでも住み続けたいと思える都市、住んでみたいと思える都市を目指します。
- ・そして、小千谷の個性と創造力(=魅力)を全国に発信し、県内だけでなく、首都圏など全国との多様な交流が活発になる都市を目指します。

(3)都市づくりの目標

- ・都市づくりの基本理念やテーマを実現し、安全で快適に暮らせる都市環境と自立可能な地域力のある都市を形成するため、以下の3つを都市づくりの目標（柱）として掲げます。

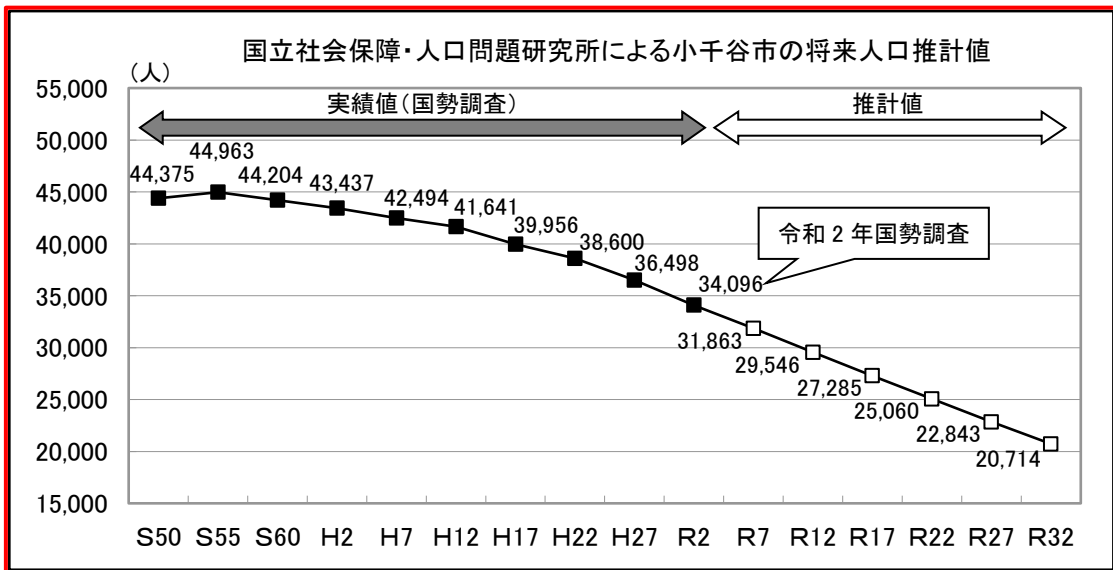


2. 人口フレーム

- ・「人口フレーム」は、将来における都市規模の設定や都市施設の整備目標量の算出根拠などとして重要な事項です。
- ・設定値が大きすぎれば、その受け皿となる都市整備の目標量が過大となり、公共投資の効率性や投資効果が損なわれるとともに、その後の維持管理費も増大します。設定値が小さすぎれば、市民の暮らしを支える生活基盤の不足やサービスの低下につながります。

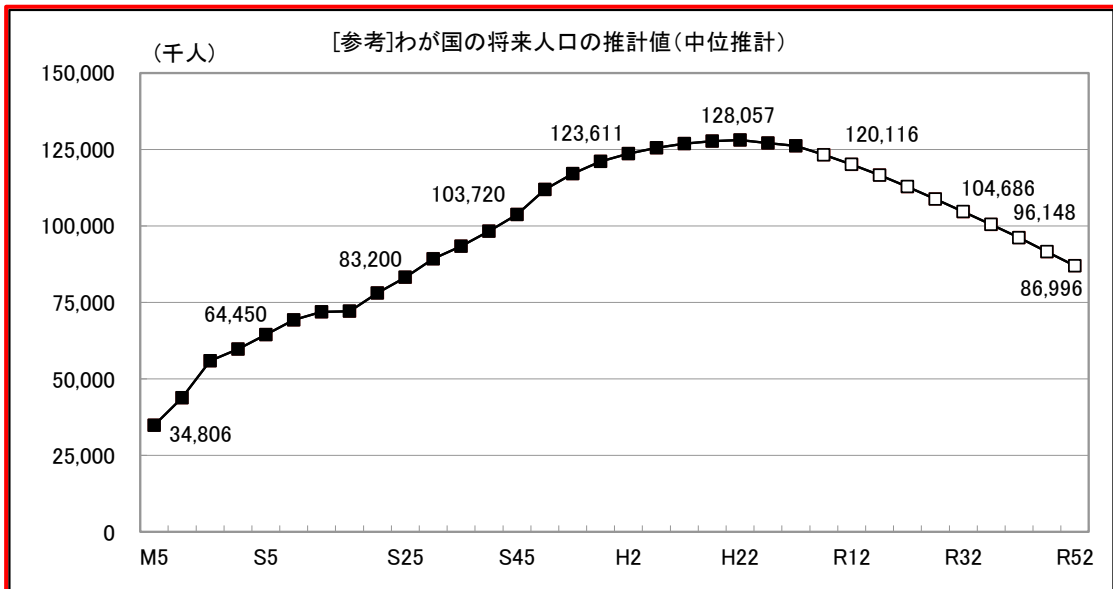
①将来人口の推計

- ・令和2年の国勢調査を基準に国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に公表した市町村別の将来推計人口によると、本市の人口は、目標年次である令和12年には29,546人にまで減少する結果となります。



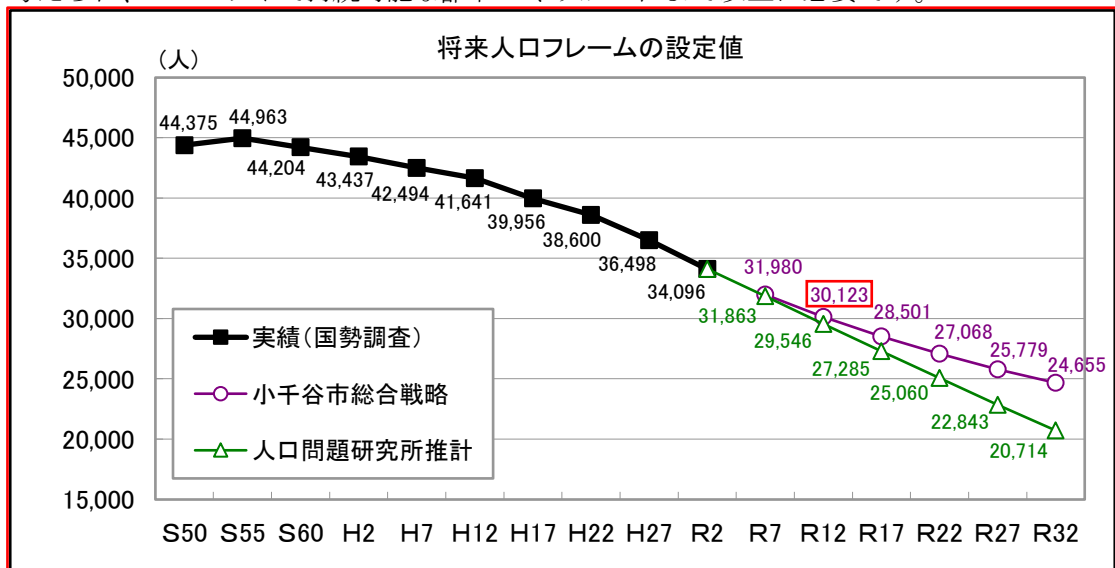
[参考]わが国の将来人口の推計

- ・我が国の総人口は平成22年以降に長期の減少過程に入り、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口でみると令和42年(2060年)には1億人を下回り、令和52年(2070年)には約8,700万人にまで減少する結果となります。



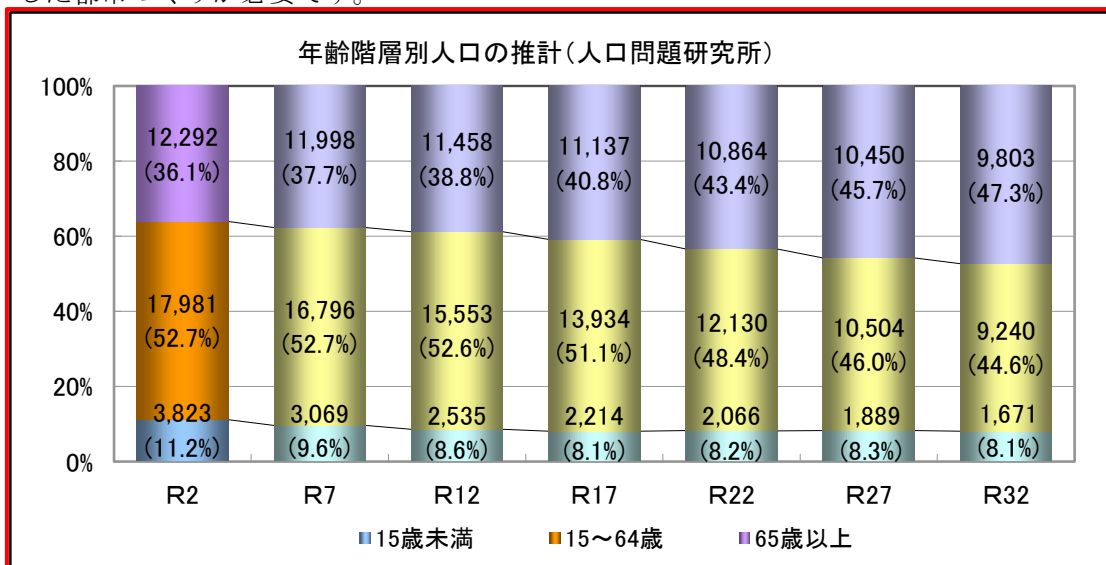
②将来人口フレーム

- ・人口の減少は、都市活力の低下や産業の衰退だけでなく、農地や山林が有する美しい自然景観の荒廃、長年にわたり培われてきた独自の歴史・伝統・生活文化・地域産業の担い手不足、地域コミュニティの衰退などを招きます。
- ・このため、安全に住み続けられる環境づくり、定住とU I ターンの推進、雇用の場の確保、子どもを産み・育てやすい環境づくりなどを進め、人口減少を抑制するとともに、観光や田舎暮らし体験などの交流人口の拡大に取り組んでいく必要があります。
- ・そこで、本計画では「小千谷市総合戦略」に基づき、目標年次（令和12年）における目標人口を30,123人と設定し、目標達成に向けて総合的な視点で取り組んでいきます。
- ・ただし、本格的な人口減少社会を迎える中で、長期的な人口減少は避けられないものと考えられ、コンパクトで持続可能な都市づくりがこれまで以上に必要です。



(参考) 年齢階層別人口の予測

- ・令和32年の将来推計人口の内訳を年齢階層別にみると、15歳未満の年少人口の割合が10%を下回る一方、65歳以上の老年人口の割合が47.3%を占める結果となります。
- ・このため、医療や福祉対策だけでなく、高齢者に対する移動手段の確保、自然環境の面から自動車に過度に依存せず暮らせる環境づくりなど、高齢者と自然環境に配慮した都市づくりが必要です。



3. 将来都市像

都市内外の交流と連携を深め、自然との共生を図りながら個性と魅力を創出する都市づくりを目指し、都市拠点の適正な配置と多様な交流を促進する都市の軸づくりを進めるとともに、片貝・西部・東部・南部地域の特性を活かした地域づくりに取り組みます。

①個性ある地域づくり

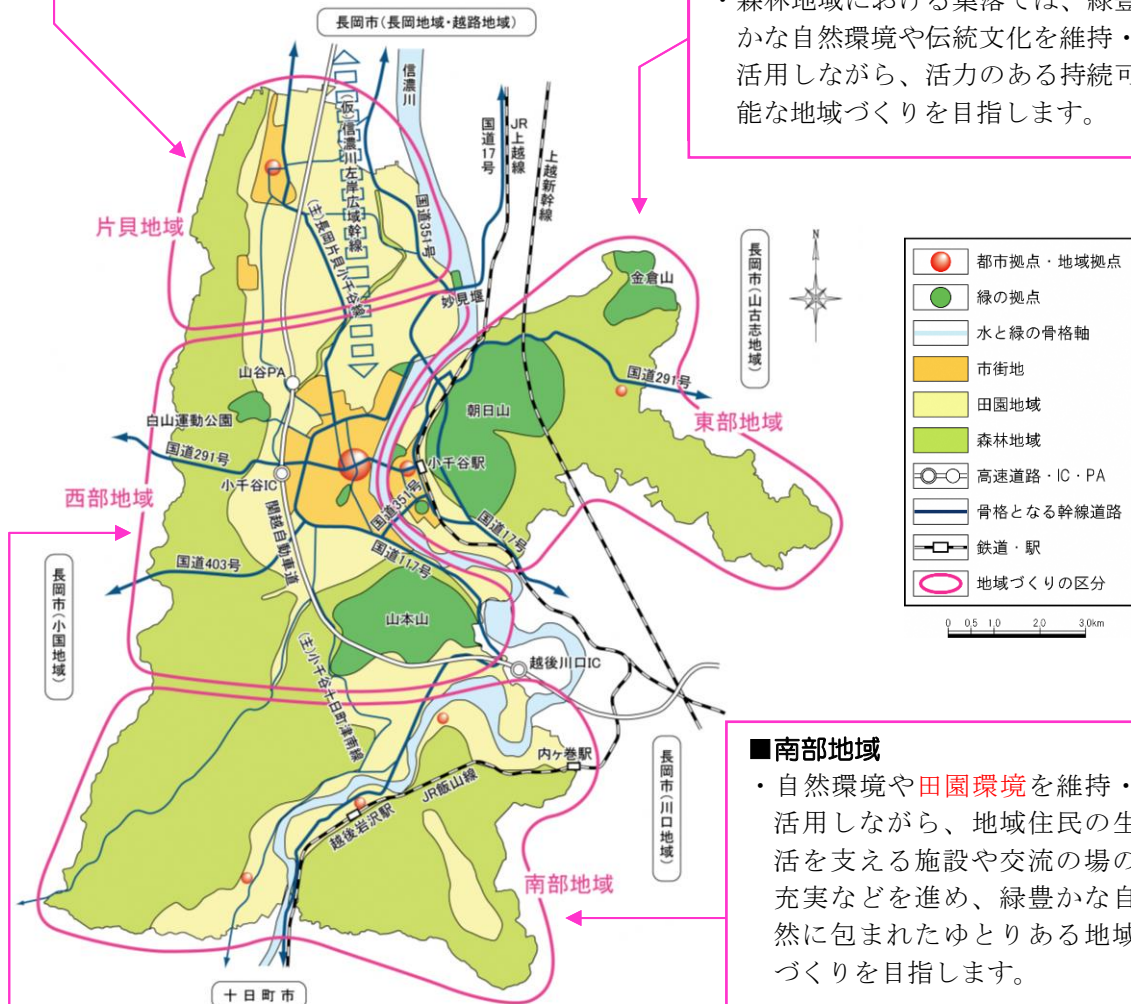
◆ 将来都市像図 ◆ (小千谷市全域)

■片貝地域

- ・長岡市に近接する利便性の高さを活かして、住宅地や立地企業を中心に、職・住が近接する快適な市街地環境を形成します。
- ・丘陵地や集落地では、豊かな自然景観や伝統文化を守りつつ、これらを活かした個性ある地域づくりを目指します。

■東部地域

- ・市街地では、地域住民の生活を支える拠点づくりと安全で快適に暮らすことのできる都市環境づくりを進めます。
- ・森林地域における集落では、緑豊かな自然環境や伝統文化を維持・活用しながら、活力のある持続可能な地域づくりを目指します。



■西部地域

- ・既存の都市機能や地域資源を最大限に活用しながら、都市の『顔』となる拠点づくりを進めるとともに、適正な土地利用の規制・誘導によりコンパクトな市街地を形成します。
- ・市街地を取り囲む田園・森林地域では、山本山や河岸段丘などの自然環境・景観と共生する地域づくりを進めるとともに、良好な環境を活かした体験・交流や農山村居住などを推進します。

■南部地域

- ・自然環境や田園環境を維持・活用しながら、地域住民の生活を支える施設や交流の場の充実などを進め、緑豊かな自然に包まれたゆとりある地域づくりを目指します。

②魅力ある都市の拠点づくり

賑わい 拠 点	<ul style="list-style-type: none"> ・本町周辺は、賑わい・情報発信・市民の挑戦の場の核となるひと・まち・文化共創拠点「ホントカ。」やテレワークステーションおぢやを中心に商業・業務機能の強化を図るとともに、本市の中心市街地にふさわしい賑わいのある拠点づくりを進めます。 ・東小千谷市街地や片貝市街地の既存商業地では、地域住民の生活に密着した日常的なサービスを提供する商業地づくりを進めます。
生活文化 交流拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・小千谷市総合産業会館サンプラザ周辺は、錦鯉や小千谷縮など本市固有の伝統産業や歴史文化を活かしながら、都市の顔として市民が誇りをもてる拠点づくりを進めます。 ・小千谷市地域間交流センター「湯どころちぢみの里」では、本市の魅力をPRするとともに、広域的な自動車交通を市内へ誘導するような仕掛けづくりを進めます。 ・市民会館周辺及び市民学習センター周辺は、地域活動や文化・教育活動の中心となる拠点として機能強化を図ります。
健康福祉 拠 点	<ul style="list-style-type: none"> ・総合体育館周辺や健康・こどもプラザ「あすえ〜る」、(仮称)小千谷市防災センターを拠点として、市民の健康増進と地域福祉の向上に向けて機能強化を図ります。
医療拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・小千谷総合病院を地域医療の拠点として、周辺土地利用との調和に配慮しつつ、アクセスがしやすい環境整備を図ります。
緑の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・山本山一帯では、四季を通じて楽しむことができる景観を整備することで、自然と親しめる観光、学習やレクリエーションの拠点などとしての活用を図ります。 ・白山運動公園や信濃川河川公園などの都市公園においては、スポーツ・レクリエーションの拠点として活用を図ります。 ・市街地では、既存公園の適切な維持管理を図ります。 ・市民が気軽に集う拠点として、防災公園の維持を図ります。
防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・防災機能を有する公園の維持管理や(仮称)小千谷市防災センターの整備により、災害に備えた防災拠点として機能強化を図ります。
産業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の工業団地は、本市の活力を創造する産業拠点として、周辺環境との調和を図りながら、立地企業の成長を支援します。 ・さらなる産業の振興と既存の市街地環境の改善を図るため、土地利用条件や交通条件などを踏まえながら企業の立地を促進するとともに、新たな企業用地の整備を検討します。

③多様性のある都市の軸づくり（道路、鉄道・バス路線、河川など）

<p>交通軸</p>	<p>・周辺都市や市内各地域を結ぶ広域道路を整備・充実するとともに、市街地では放射環状型の道路網を形成し、鉄道やバス、乗合タクシーなどの二次交通と連携しながら、総合的な交通ネットワークづくりを進めます。</p>
<p>賑わいの軸</p>	<p>・小千谷駅と小千谷 IC を結ぶ導線を、商店街などと連携してまちなみ景観の演出を図り、潤いのある、人に優しく魅力的な空間づくりを進めます。 ・国道 117 号沿いや片貝市街地の外縁部などでは、沿道の土地利用の適切な誘導に努めながら、賑わいや楽しさが感じられる空間づくりを進めます。</p>
<p>水と緑の軸</p>	<p>・信濃川、茶郷川などの河川環境や地形を活用した公園や親水空間・散策空間の整備を図り、回遊性のある水と緑の軸づくりを進めます。</p>

